

所属・職・氏名	岩手大学教育学部 芸術文化課程 助教授・田中 隆充
シリーズ名	パッケージングデザイン
シリーズ概要	図1は実際に製品化された日本酒のパッケージングデザインである。本商品の独特のキレのある味とほのかな甘味が広がる香りの“味覚と臭覚”を色彩でデザイン化した。パッケージングデザインで重要な要素の1つには、店頭で目立つということ、更にギフトとしての候補商品として好印象を与えることである。そして、企業のアイデンティを小さな面積にデザインとして表現することであり、単に商品名が目立てばよいというのではない。本デザインはそのような点を示した事例である。 図2は植物の種と土をパッケージング化するという実験的なデザインである。全てを育て、最後には自然に返すというデザインコンセプトに基き、仮に捨てられても土に戻る素材を使用し、グラフィックデザインも自然的な暖かみのあるグラデーションを用いたシンプルかつ美的なイメージを与えるよう工夫されている。また、上部の蓋が解放されたとき容器の角を頂点とした三角形の形状となり包装用容器をそのままインテリアでの容器として利用が出来、容器外観の美しさと包装用容器としての実用性を両立できるよう工夫した。  図1  図2
その他参考資料	
共同研究機関・企業	金盃酒造(株), (株)田中デザインオフィス
特許(出願)番号	意匠登録第1081896号